日蓮大聖人御書全集

華果成就御書（けかじょうじゅごしょ）

新版
1210
～
1211

華果成就御書

弘安元年('78) 4月 57歳 浄顕房・義浄房

その後、なに事もうちたえ申し 承 らず 候。

さては建治の比、故道善房聖人のために二札かきつかわし 奉 り 候 を、嵩が森にてよませ給いて 候 よし、悦び 入って 候。

たとえば、根ふかきときんば枝葉かれず、 源 に水あれば流れかわかず、火はたきぎかくればたえぬ。草木は大地なくして生 長 することあるべからず。

日蓮、法華経の行者となって、善悪につけて日蓮房・日蓮房とうたわるるこの御恩、さながら故師匠・道善房の故にあらずや。

日蓮は草木のごとく、師匠は大地のごとし。

彼の地涌の菩薩の上首、四人にてましまします。「一に上行と名づけ乃至四に安立行菩薩と名づく」云々。末法には上行出世し給わば、安立行菩薩も出現せさせ給うべきか。

されば、いねは華果成就すれども、必ず米の精、大地に

おさまる。故(ゆえ)にひつじおいいでて、二度(にど)、華果成就(はなみじょうじゅ)するなり。

日蓮(にちれん)が法華経(ほけきょう)を弘(ひろ)むる功徳(くどく)は、必(かなら)ず道善房(どうぜんぼう)の身(み)に帰(き)すべし。あらとうと、とうと。

よき弟子(でし)をもつ時(とき)、師弟仏果(していぶっか)にいたり、あしき弟子(でし)をたくわいぬれば、師弟地獄(していじごく)に堕(おつ)といえり。師弟相違(していそうい)せば、なに事も成(なす)べからず。委(くわ)しくはまたまた申(もう)すべく候(そうろう)。

常(つね)にかたりあわせて、出離生死(しゅつりしょうじ)して、同心(どうしん)に霊山浄土(りょうぜんじょうど)にてうなずきかたり給(たま)え。経(きょう)に云(い)わく「衆(しゅ)に三毒(さんどくあ)有(あ)りと示(しめ)し、

また邪見の相を現ず。我が弟子はかくのごとく、方便もて衆生を度す」云々。前々申すごとく御心得あるべく候。

あなかしこ、あなかしこ。

弘安元年戊寅卯月　日

日蓮　花押

浄顕房

義浄房